

# あかいら

No.339



2017. 2

岩手県勤労者山岳連盟



盛岡山友会



# あかげら

# 2月号

も く じ

- 
- 01 縦走路「山の仲間へ感謝して」 北田 絹恵  
02 今後の日程（事務局）
- 
- 03 今後の山行計画
- 
- 07 運営委員会報告  
09 事務局から  
11 専門部報告  
●教育遭対部  
12 行ってきました！
- 
- ▲山行報告  
13 姥倉山を滑る 小原 耕  
14 雪山の小屋泊まりを楽しむ 小原 耕  
16 三ツ石山（日帰りグループ） 大峠 茂喜  
18 ピッケル、アイゼン訓練（ニセ鶏頭山B班） 加藤 桂子  
19 小松倉ツリーランを楽しむ 大峠 茂喜
- 
- 21 ある日ある時 “<どこでもドアの常識>” 淡 望天  
24 交流の広場

まったくと言っていいくらい山に登った事の無い私が友人に誘われ盛岡山友会に入会したのは何かに悩んでいた平成14年だった。6月の修了山行は秋田駒ヶ岳国見コースで朝から霧雨の降る不安定な天候だった。たまに青空が開け振り返れば田沢湖が見えた。残雪もあり雨に濡れたショウジョウバカマやシラネアオイがきれいだった。ところが大焼砂の稜線では強烈な風が吹き荒れしゃがみ込んだり踏ん張ったりしなければ立っていられなかった。恐怖さえ感じたがSLたちに両脇をしっかりとガードされ無事に歩いた事が忘れられない出発点となった。あの時は守ってくれて有難う。一緒に入会し一緒に歩いた山が好きだった友人は事情があり退会してしまったが私はあれから15年近くたとうとしている。

体力も根性も無い私は入会当初から歩くだけが精一杯で周りの景色も足元の花さえも見る余裕が無かったし、車酔いもひどく集合場所から登山口までどこを走ったのか覚えていなかった。“今日一日歩けた”それだけが私の満足だったのかもしれない。山友会のモットーである自立した登山者からは程遠い私を見放さずサポートしてくれた仲間がいたから今の私がいるといつも感謝している。

山友会に入会しなかったら行く事は無かったと思う場所や景色や経験も沢山出来た。北海道で見た太平洋に沈む夕日。20周年記念で登った富士山でのご来光。スイスアルプスで見たマッターホルンでの震えるような感動。夢のような高山植物の山道。キナバルに行った時、初めて飛んだパラセーリング。県連山行での蝶ヶ岳で見た満天の星空。厳冬期の岩手山に登れたことも嬉しい。平成22年の還暦山行では九州の百名山を企画してもらった。宮之浦岳・屋久島・開聞岳・最終日の韓国岳は雨だったがミヤマキリシマが可憐だった。当時のことがとても懐かしく昨日のようでもあり、遠い昔のようにも感じられる。レンタカーでの移動は長く、運転してくれた人は山にも登り、知らない所を運転したり大変だったと思う。平成22年・平成23年・平成24年と“だんごさんきょうだい”の還暦山行が続き九州・四国へ3年続けて行った。忘れられない楽しい思い出になっている。

私の半生を振り返った時楽しかった思い出の殆んどが盛岡山友会に入会してからの15年間だったと改めて気づいた。

計り知れない雄大な自然を沢山経験出来たのは仲間の支えがあったからだといつも思う。足が攣った時はリュックを持ってくれ頂上まで登らせてくれて有難う。心を支え励ましてくれて有難う。

山は自分と向き合うことを教えてくれたし仲間の有難さを教えてくれた。  
盛岡山友会の皆さん心からありがとう。

# 今後の日程 (2017/3/1～2017/4/3)

行 事		行 事	
3/1		18	▲姥倉山から松川温泉 (銀世界)
水		土	
2	2/27～3/5 No.416 福山茂和	19	▲三ツ石山 (四季) ～20 日
木		日	▲青麻山 (山行企画) ↓
3		20	▲乳頭山～秋田駒ヶ岳 (銀世界) ↑
金		月	
4		21	
土		火	
5	☆県連総会 (花巻市交流会館)	22	◎3月例会 (勤労福祉会館) 18:45～
日	▲須賀倉岳 (銀世界) ↓	水	
6		23	
月		木	
7	3/6～3/12 No.433 岡 義博	24	3/20～3/26 No.385 小田嘉洋
火		金	
8	◎運営委員会 (勤労福祉会館) 18:45～	25	▲夏油スキー場～金名水・経塚 (銀世界)
水		土	
9		26	▲貝吹岳 (名山) ↓
木		日	
10		27	
金		月	
11	▲岩手山 (銀世界) ～12 日	28	3/27～4/2 No.350 木村 一
土		火	
12		29	
日		水	
13		30	
月		木	
14	3/13～3/19 No.455 大倉 博	31	
火		金	
15		4/1	▲岩手山ハート沢の西尾根 (銀世界)
水		土	
16	▲鎌倉森 (ウィーク)	2	▲室根山 (山行企画) ↓
木		日	
17	▲東根山 (ゆうゆう)	3	
金		月	

◆「やま・ともサロン」は日程を決めず、会員の希望により随時開放します。ご希望の方はお電話ください。  
090-4318-5128 (No. 19 中村美栄子さん)

◆山行管理専用アドレス: morioka\_yamakan@freeml.com

# 今後の山行計画

\*掲載の山行企画は全会員を対象としています。

【山域/ルート】 須賀倉岳			企画	G 銀世界
実施日	3月5日(日)	地形図	(1/25000)	
目的	須賀倉岳を滑る			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	スキーで初めての山です。滑りはどうかな？			
締切り	2月25日(土)	打ち合わせ	3月2日(木)勤労福祉(銀世界定例会)	
問合せ	松田希 連絡先:TEL080-3323-2367 Cメール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 岩手山			企画	G 銀世界
実施日	3月11日(土)~12日(日)	地形図	雫石・姥屋敷 (1/25000)	
目的	岩手山にテントで泊まる			
難易度	歩行:★★★★	荷物:★★★★	技術(無雪期):★★★★	
コメント	雪山テント泊です			
締切り	2月28日(火)	打ち合わせ	3月2日(木)勤労福祉(銀世界定例会)	
問合せ	久保加世子 連絡先:TEL090-8784-4287 Cメール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 鎌倉森			企画	ウィークディクラブ
実施日	3月16日(木)	地形図	松川温泉・篠崎 (1/25000)	
目的	平日山行を楽しむ			
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	積雪期限定の山です。犬倉山を経由して周回します			
締切り	3月9日(木)	打ち合わせ	3月13日(月) おでって2F 18:30	
問合せ	工藤敬子 連絡先:TEL 019-635-3203 FAX 可			

【山域/ルート】 東根山		企画	ゆうゆう
実施日	3月17日(金)	地形図	(1/25000)志和・南昌山
目的	冬の山でのラッセル		
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(雪期):★★
コメント	無理をせず行ける処までの山行と温泉を楽しむ。		
締切り	3月11日(土)	打ち合わせ	3月13日(月) 18:30 おでって2F
問合せ	連絡先:太田代 TEL 080-6025-9450		

【山域/ルート】 姥倉山から松川温泉		企画	G 銀世界
実施日	3月18日(土)	地形図	松川 (1/25000)
目的	山スキーを楽しむ		
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★
コメント	姥倉山から松川温泉に向かって滑ります		
締切り	3月28日(火)	打ち合わせ	3月2日(木)勤労福祉(銀世界定例会)
問合せ	三浦明夫 連絡先 : TEL 090-1069-2333 Cメール 銀世界掲示板		

【山域/ルート】 三ツ石山		企画	四季の山
実施日	3月19日(日)20日(月・祝)	地形図	松川温泉 篠崎 (1/25000)
目的	小屋泊まり体験		
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(積雪期):★★
コメント	網張スキー場から三ツ石小屋に行きます。小屋から三ツ石山を目指します。		
締切り	3月11日(金)	打ち合わせ	3月13日(月) プラザおでって2F 18:30
問合せ	熊谷久美子 連絡先:TEL 019-662-4930 又は 080-5228-69087		

【山域/ルート】 青麻山		企画	山行企画部
実施日	3月19日(土)	地形図	白石 (1/25000)
目的	東北百名山		
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(無雪期):★
コメント	蔵王連峰の東方10kmの独立峰で双耳峰のピークがある		
締切り	3月12日(日)	打ち合わせ	3月13日(月) おでって2F 18:30
問合せ	千田 勝則 連絡先:TEL 019-635-0201		

【山域/ルート】 乳頭山～秋田駒ヶ岳			企画	G 銀世界
実施日	3月20日(月)	地形図	秋田駒ヶ岳 (1/25000)	
目的	乳頭山から秋田駒へスキーツアー			
難易度	歩行:★★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	岩手山を眺めながらスキーツアーを楽しみます			
締切り	2月28日(火)	打ち合わせ	3月2日(木) 勤労福祉(銀世界定例会)	
問合せ	大峠 茂喜 連絡先:TEL 090-5599-2838 Cメール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 夏油スキー場から金名水・経塚			企画	G 銀世界
実施日	3月25日(土)～26日(日)	地形図	夏油温泉 (1/25000)	
目的	夏油温泉から周回コース			
難易度	歩行:★★★	荷物:★★★	技術(無雪期):★★★	
コメント	夏油温泉から牛形山を経由し金名水小屋で一泊。経塚山から金ヶ崎駒ヶ岳を経て夏油大橋へ下山します			
締切り	3月15日(水)	打ち合わせ	3月17日(月)18:30 オデッセ	
問合せ	古川 孝 連絡先:TEL 090-8923-3120 Cメール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 貝吹岳			企画	岩手の名山歩こうかい
実施日	3月26日(日)	地形図	国見温泉 (1/25000)	
目的	岩手の名山を歩く。			
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	仙岩トンネルから登ります。ラッセルを楽しみましょう。			
締切り	3月19日(日)	打ち合わせ	3月22日(水) 勤労福祉会館 18:15	
問合せ	級木信子 連絡先:TEL 090-2844-9481			

【山域/ルート】 岩手山ハート沢の西尾根			企画	G 銀世界
実施日	4月1日(土)	地形図	(1/25000)	
目的	岩手山を滑る			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	馬返しから登り、岩手山の中腹から滑ります			
締め切り	3月15日(水)	打ち合わせ	3月22日(水)18:20 勤労福祉会館	
問合せ	石川 享子連絡先 : Tel 090-4315-7120 Cメール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 室根山			企画	山行企画部
実施日	4月2日(日)	地形図	折壁 (1/25000)	
目的	山頂から海を眺めよう			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	県南の独立峰			
締め切り	3月26日(日)	打ち合わせ	3月27日(月) おでつて2F 18:30	
問合せ	千田 勝則 連絡先::Tel 019-635-0201			

あかげら 3月号に掲載する山行計画は、郵送、メールにて、山行企画部  
 No.305 山田潔までお願いします。 **※アドレス変更しました**  
 メール : kyamada0815@ybb.ne.jp 締め切りは 3月5日(日)です。  
 なお、フォーマットは会員専用 HP 左下の様式ダウンロードを御利用ください。

# 2016年度 第11回運営委員会報告

出席者（成立可：12/18名） 2017.2.8(水)18:45～ 勤労福祉会館

渡邊 三浦(明) 石澤 小野寺 千田 古川 山田(潔) 福山 小川 三浦(良)  
大倉 舟越【オブザーバー参加】 中村(数)

(進行：渡邊)

## 1 会長あいさつ

今日の運営委員会から4月の定期総会に向けた検討が始まる。今年は、臨時会議は開かずに、メーリングリストを活用して負担軽減を図ることにしたのでよろしく願います。

## 2 報告事項・確認事項

(1) 現在の組織状況（2月7日現在）

会員数103名（男53名／女50名） 登山時報48部（1部増）

(2) 各専門部等の取組状況

- ① 山行管理委員会…計画394件、実施345件、報告198件(57%) [2/7現在]
- ② 教育遭対部…1/29冬山入門（鶏頭山18名）
- ③ 山行企画部…なし
- ④ 組織部…なし
- ⑤ 自然保護部…なし
- ⑥ 会報部…なし
- ⑦ 事務局…定期総会までのスケジュール（別表）
- ⑧ 県連理事…1/21雪崩講習会（初級17人/34人、中級3人/8人）、2/4拡大理事会（7人/20人）、2/5セルフレスキュー講座（23人/60人）

## 3 協議・承認事項

(1) 来年度の初級登山教室について

- ・机上講習について、これまで日曜日の1日で全講座を実施してきたが、講習効果等を考えて平日夜の3日に振分けて実施することとした。
- ・日程は、実技を含めて6月実施とし、会場確保等と併せて組織部で設定する。
- ・これまで実施してきた特別講話は、時間の都合もあり実施なしとした。

(2) 県連総会（3/5）の代議員選出について

- ・3月5日に開催する県連の定期総会について、代議員10人の選出について協議し、出席運営委員から2名の申し出があった。
- ・例年どおり、各専門部から1～2名を推薦してもらうこととした。（後日MLでお願い済）

(3) 定期総会に向けた総括・方針の検討について

・各専門部から提出のあった総括と方針(たたき台)について検討を行なった。  
検討の概要は以下のとおり。

・なお、事務局と会運営全般については運営委員会のメーリングリストで意見交換することとした。

[山行企画部]

・バス山行は、バス代の高騰で一人当たりの負担が大きく、参加者も集まりにくくなっているのでやり方を見直すこととする。

・山行企画部の山行は、原則月2回とし年間計画を定期総会に提案する。

[組織部]

・初級登山教室の受講者が少なくなっていることなどから、机上講習等の日程の見直しを行う。(協議事項のとおり)

・納山祭について、山の会らしく会員が力を合わせて楽しく盛り上がる企画内容とする。(公民館等で料理持込みなど)

・新人オリエンテーションは、日程を決めず、新入会員が入った都度タイミングを見て開催する。

[自然保護部]

・山行報告書に記載ある登山道の定点観測の状況について、概要を取りまとめ総括に加える。

・空中放射線量の測定は、測定場所等を含めて県連方針に従って実施することとする。

[会報部]

・印刷費について、インターネット印刷との見積もり比較結果を参考として掲載する。(比較結果はネット印刷のメリットなし)

[教育遭対部]

・来年度も年間を通して、初級登山教室から、泊山行(ツェルト泊も)、救急救命、冬山など、会員のレベルアップと交流を目的に実施する。

・新人など受講して欲しい会員には、オリエンテーションやその他の機会に意識的に声掛けを行う。

[その他意見交換]

・山行管理について、下山連絡がパソコンメールに来るときがあるので、携帯等の周知が必要だ。

・緊急連絡先の当番が山に入るときの代替ルールを明確にしてもらいたい。

## 事務局から

### ◆会員動向について (2/12 現在)

会員数 103 名 (男 53 名/女 50 名) 内家族会員 4 名  
登山時報 48 部 (3 月号) 1 部増

### ◆30 周年記念祝賀会の表彰者紹介

遅ればせながら、昨年 11 月 26 日の 30 周年記念祝賀会において、会長から表彰された皆様をご紹介します。

#### □感謝状 中村美栄子さん

あなたは、会誕生直後に入会され、創立メンバーと共に会の黎明期を支えるとともに、今日に至るまで常に会の中心にいて、30 年という会の歴史に様々な足跡を残されました。何事にもチャレンジ精神を発揮され、積極果敢に取り組む姿は、会員の規範であるばかりか、人生の先輩として何よりも尊敬すべき存在となっています。

今年は、3 月に行程 45 km の六甲全山縦走を仲間と共に完走し、記念事業では記念グッズの制作や講演会チケットの管理を積極的に引き受け大成功に導くなど、衰えを知らない活躍をされました。

今の会の姿は、育ての親とも言えるあなたの存在を抜きにして語ることはできません。

ここに、これまでの多大なる貢献に感謝するとともに、今後ますます元気に活躍されることを願い本状を贈ります。

#### □感謝状 千田勝則さん

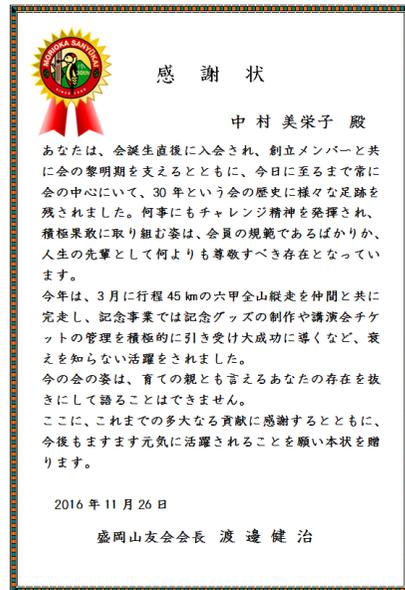
あなたは、会創立メンバーとして、30 年の長きに渡り、途切れることなく山行企画を出し続け、多様な志向を持つ会員の願いに応える総合山岳会として、その面目を保つ一翼を担ってこられました。

特に、高山植物にかかる情熱は他を寄せ付けないものがあり、毎年恒例となっている北海道山行は、あなた抜きでは語れないものになっています。

これまで、運営委員として一貫して山行企画に携わるとともに、今年は県連理事も引き受け、創立会員としての誇りを持って会運営を支えてくれています。

単刀直入でぶっさら棒の物言いは、30 年前と全く変わらないものの、当会への思いは齢を重ねるとともに、誰にも負けないものになっています。

ここに、創立会員としての長きに渡る貢献に感謝するとともに、これからもますます活躍されることを願い本状を贈ります。



## □感謝状 石澤妙子さん

あなたは、1993年に入会され、4年後の1997年に初めて運営委員として会計担当となられ、その後、2年のブランクはあったものの、延18年間という長い間、会運営を支える会計担当の重責を担ってこられました。

その間、厳しい会計監査をクリアしながら、適正な会計処理のために日々改善に努めるなど、会の屋台骨をしっかりと支えるための努力を重ねてこられました。

その結果として、健全な予算運営の基礎を築き、会の金庫番としてゆるぎない信頼を得ていることは特筆すべきことです。

ここに、その多大なる貢献に感謝するとともに、今後後継者の育成も視野に、ますます活躍されることを願い本状を贈ります。

## □志向別企画グループ最優秀賞 グループ「県境の風」

貴グループは、10年前に盛岡市境のトレースを完成させた「グレンツェ」の成果に刺激を受け結成され、これまで多くの会員が関わって県境トレースに取り組んでこれらました。

強烈な笹藪や残雪のクレバスに行く手を阻まれ、時に遭難騒ぎを起こしながら、長くて辛い、想定外に険しかった県境歩きも、秋田県境の一部25kmを残すところとなりました。

10年の歳月は、そのときどきにジャンルを越えて会員が力を合せ、目標に向かって道なき道を突き進む、登山の醍醐味を追い求めるものでもありました。

ここに、志向別山行企画グループとして、会への多大なる貢献を讃えるとともに、残る県境25kmの完遂とさらなる目標に向けた取組に期待して、ここに本賞を贈ります。

## □最優秀新人賞 杉澤 瑠実子さん

あなたは、昨年5月に入会され、早くも今年4月からは運営委員を引き受け、縁の下の力持ちの事務局メンバーとして活躍されています。

運営委員となった直後は、議論白熱する運営委員会に違和感を覚えたと思われるかもしれませんが、その中であっても、たじろぐことなく冷静に座し、自らの頭で考えようとする姿勢は頼もしさを感じるものでした。

記念事業の取組では、講演会のチラシとチケットのデザインを引き受け、その才能を発揮するとともに、全国連盟の登山研究集会では自ら参加を希望し、積極的に学ぼうとする姿は眩いものがありました。

ここに、この一年の活躍を讃えるとともに、今後も無限の才能を開花させ、登山者として、また、自然を愛する市民として、成長し続けることを期待して、ここに本賞を贈ります。

## ◆例会の司会と片づけ担当

月	担 当	月	担 当	月	担 当
4・10月	教育遭対部	5・11月	山行企画部	6・12月	会報部
7・1月	組織部	8・2月	事務局	9・3月	自然保護部

# 専門部報告

## ● 教育遭対部

### 【雪洞訓練】

日程：[3月12日\(日\)](#)

場所：網張(未定)

受付：小原 耕 締切り 2/28 まで

(cメール：[090-6250-0864](mailto:090-6250-0864) または [oba.1962.ko@icloud.com](mailto:oba.1962.ko@icloud.com) )

山友会 教育遭対部の企画で講習会(ピッケル&アイゼン)を予定しております。

### 原稿のお願い

3月号の原稿締め切り

◎ 3月4日(土)

※手書き原稿の場合は、2日前までとします!

□ 送り先

◎手書き原稿 (郵送)

会員No.357 渡部 彩子

〒020-0632 滝沢市牧野林 1047-66

Tel 090-7528-1968

◎メール原稿

会員No.301 久保 加世子

メールアドレス [k-kubo@mba.nifty.ne.jp](mailto:k-kubo@mba.nifty.ne.jp)

# 行ってきました!

[1月16日～2月12日現在]

No.	月日	山域	ルート	目的	参加者名	会	分類
1	1月24日	鞍掛山 (897.1m)	相ノ沢コース(右回り)	トレーニング(雪山)	L岡(義)・S高橋(恵)・太田代	3	個人
2	1月28日	下倉山・中倉山	下倉スキー場～中倉山往復	スキー練習	L大峠・S古川・S山田(潔)・大森・杣澤・舟越・小泉・村田	8	会
3	1月29日	鶏頭山	岳コース	ビッケル・アイゼン訓練	【A班】L松田(幸)・S木村(一)・遠藤(千)・工藤(敬)・岡(義)・小原(耕)・中村(篤)・松田(希) 【B班】L三浦(明)・S中村(数)・高橋(恵)・加藤(桂)・太田代・高橋(陽)・小田(嘉)・小田	18	会
4	2月4日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	樹氷を見て滑る	L古川・S三浦(明)・石川・大峠・杣澤・徳永・木村(三)・木村(一)・村田	9	会
5	2月4日	赤林山	キャンプ場コース	平日山行を楽しむ	L工藤(敬)・S中村(美)・北田・加藤(桂)・本間(典)	5	会
6	2月5日	八幡平	旧八幡平スキー場～茶臼岳往復	八幡平トレーニング	久保〔会員外〕3名	1	個人
7	2月5日	奥入瀬溪流	現地で決定	アイスクライミング	L松田(幸)・松田(希)〔会員外〕1名	1	個人
8	2月5日	小松倉山	網張スキー場～小松倉山～奥産道～スキー場	小松倉からのツリーランを楽しむ	L大峠・S古川・S石川・村田・木村(一)・徳永・杣澤・山田(潔)	8	会
9	2月11日	奥入瀬溪流	グリーンミレットほか	アイスクライミング	L松田(幸)・松田(希)〔会員外〕1名	2	個人
10	2月11日	乙部三山(鬼ヶ瀬山)	一森森～左回り周回	乙部三山で冬山トレーニング	L小田(嘉)・S中村(数)・高橋(恵)・加藤(桂)・太田代・本間(典)・高橋(陽)・中村(篤)・大倉・小田(春)	10	会
11	2月11日～2月12日	赤林山 (855m)	矢巾温泉コース	冬の里山でラッセルとテント泊を楽しむ	L日比野・S熊谷(久)・工藤(敬)	3	会

注：これは、あくまで速報的なものですので、掲載もれや誤り等がある場合はご容赦ください

# 山行報★告



## 姥倉山を滑る

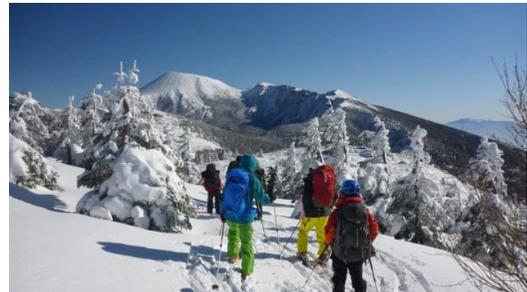
454 小原 耕

期日：1月8日（日） 晴れ（快晴）

参加者：CL大峠、SL三浦（良）、松田（幸）、松田（希）、石川、船越、大森、小泉、小原

コースタイム：スキーセンター8:00/8:30 ⇒第3リフト9:25 ⇒鞍部10:15（休憩）  
⇒姥倉11:05（滑降） ⇒コル11:30/12:10（昼食） ⇒犬蔵12:35 ⇒網張センター13:55

**カッキーン！！**『紺碧の青い空 純白の氷雪』 こんなにも山が綺麗な様相を呈するとは？新年山行の翌日、我ら銀世界のメンバーは、網張りスキー場経由の姥倉山ツアーを決行した。山の晴天の日は、数々あれどこんなにも晴れ渡った『青と白の世界』は、あまり記憶がない。「山の神様、ありがとう！（合唱）」



我らスキー隊は、順調に姥倉目指して進行し、目的とする姥倉の斜面を捉えた。それにしても山スキーとは、こんなにも行動力の高い道具だとは？シールを着ければ、ほぼ30度くらいのところでも登坂していけるのではないだろうか？と思うくらいで（小生には無理でも）。雪山にシールと山スキーなくしては、語れないというか、話にならない。GPSという道具はあるものの、『ルートファインディング』のすばらしさには脱帽である。先頭を歩いていただいた松田さん、小泉さん、石川さん、三浦さんは、3次元的にコースを探り出すが如く、綺麗なルートを引いてくれて、後を歩くメンバーはついて行くだけ。このコース取りの上手/下手では、疲労度合いや割り当て時間も大きく変わり、レベルの低い者はできるものも限られることになると考えた。

頂上直下での積雪量は、100センチ程か？普通ならば雪に埋まっている低木も半分以上が見えていて、滑れるルートが限られてしまっている。例年の標準的な積雪量から見ると1Mほどは少ないようだ。これも地球環境が温暖化に傾いている証拠なのだろうか？九州では、おいしい米は見込めなくなって、全国の品評会では、北海道の米が上位に食い込んでいる。段々には、日本列島は『亜熱帯』に変容してしまうのだろうか？そうなれば、もちろん雪山のスキーなぞ望むべくもなくなるのだ。雪を求めて1000M級の山に出かけるどころか、2000M級の山にしか積雪が期待できなくなってしまう、そんな時代は来ないで欲しいものだ。

こんなにも楽しいスキーツアーを敢行していただきました皆様、本当に楽しい素晴らしい山に感謝いたします。

## 雪山の小屋泊まりを楽しむ

454 小原 耕

期日：1月14日（土）～15日（日） 晴れ（小雪、風あり）

参加者：CL 山田、SL 古川、SL 木村、藤本、渡邊、石川、松田(希)、船越、大森、  
久保、小原

コースタイム：

（1日目）スキーセンター8:00/8:40 ⇒No10 9:30 ⇒コル 10:05（休憩）  
⇒大松倉 10:10 ⇒小屋 11:40（昼食）/12:50 ⇒三ツ石 13:30 ⇒小屋 14:10  
（2日目）小屋 7:55 ⇒大松倉 8:40 ⇒コル 9:20（休憩） ⇒スキーセンター10:05

これが本来の雪山か、と思えるような雪空の下、私等パーティーは三ツ石山荘を目指しました。

風もあり、雪もちらつき、決してコンディションがいいというような山行ではありませんでした。網張りスキー場のリフト上でも、雪が顔に吹き付けてきて、「こりゃあ、今回の山行は、かなりしんどいことになる。。。とネガティブに連想するしかありませんでした。が、なぜか？ 隊の皆さんの顔は、生き生きとして笑い声ありの様子でした。きっと、それだけ山に見初められて、溶け込んで、心から楽しんでいるからなのか？ ……と思いました。

夏山を始めたころのことを思い出しました。当時、山が少しブームになりつつあった頃、高山植物が綺麗だという『秋田駒』に単独山行に出かけました。結構なお年寄り（当時はそう思っていました）が大勢で、「こんなに年寄りが多いのだから、簡単に行けるでしょう」と思い、ムーミン谷を目指しました。行けることは行けたのですが、楽しむというより、「なんで、こんなにも大勢の年配者が山に来ているのか？」年配になってからもできるスポーツ、運動かと考えましたが、この考えは当たりまえで、本当は、「ご自身の『人生』を重ね合わせることができるからではないのか？」と。燦燦と降りそそぐ陽光、いろいろな形に変化していく雲、生き生きとしてきらめいている青葉、まばゆく化粧する紅葉、凍てつく氷雪の銀世界、その人それぞれの『人生』に、似ているような気がしています。

（勝手な思い込みでしょうが）

深雪となった山行は、非日常的で、ワクワクする行進でもありました。一步スキー板を進めると、「ふわー」と雪がほどけて散らばり、自分の体重を乗せると、「ふにゅん」と雪が沈



んで体が落ちていき、宇宙飛行士が変な格好で歩いているようなそんな感じです。

そうこうしているうちに、本日の目的地「三ツ石小屋」が見えてきました。一旦背中の重い荷物を小屋に降ろして、軽くなった体に鋭気を戻して「いざ、三ツ石へ」。天候は、軽い吹雪状態でしたが、みんな最大の楽しみとなる「滑れる」を想像して、足取り軽～いです。三角山で記念写真を撮り、目指すは「滑れる雪原へ」Go！コンディションはまずまず、一気に山小屋まで！

さあー、待ってました「大宴会」だぞー。今日の晩餐はなにかなあ？？薪を出し、火を起こし、女性軍に「お願いしまーす」。ブシュッ、トクトク、みなさんお手元に飲み物を満たして、「乾杯!!」オードブルスナックではじまり、「ペペロンティーノ」「すっきりうどん」「漬物（藤本さん）」「パンプキンディップサラダ」など等。お腹いっぱい、満足いっぱいとなりました。話



題に事欠かない人生の先輩方々は、いろんなエピソードお持ちで、本当にあつという間に宴もお開きになりました。感謝！感謝の山小屋宴会は、盛況に幕を閉じました。

今回の天気予報では、大方荒れ模様となり、かなり厳しいとの予想でしたが。。翌日の天候は、『晴れ』となり、皆さんの日ごろの行いが良かったため、『晴れ』を用意してくださったように思えました。岩手山もくっきりと眼前にその雄姿を広げておりましたし、乳頭山のとがった頂も綺麗に望むことができました。「また来なよ！」と背後の山々が言っているようで、後ろ髪惹かれる思いで、今回の山行を終えることができました。



メンバーの方々、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

追記；小生、山行メンバーの方々には、お詫び申し上げます。酔ったためではないのですが、階段で滑り、床に落下。「大丈夫？」「どこか打っていない」「頭は？」ご心配おかけしまして申し訳ありませんでした。何もなかったから良かったものの、楽しいはずの山行記憶を嫌なものにしてしまうところでした。自戒、気持ち解けたときこそ、「気をつけよう！」です。



## 三ツ石山(日帰りグループ)

360度の眺望とパウダースキーを楽しむ

380 大峠茂喜

日 時 2017年 1月 15日  
参加者 CL 大峠 茂喜 SL 村田 真司  
コースタイム

網張スキーセンター～第三リフト～No.10～大松倉～三石山荘～三ツ石山頂～  
8:20 9:10 9:30 10:20 10:50 12:20  
三石山荘～網張スキーセンター  
12:30 14:10

網張スキーセンターから見る雪は、思っていたより少ない、ふと三ツ石山荘までの雪は大丈夫か頭を過った。

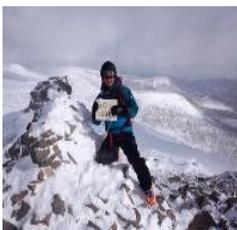
ゲレンデから見る限り、天気は絶好の山行日和、センターの職員も今日の三ツ石は、最高だと思うよと言ってくれた。

第三リフトからNo.10の標識までの移動する間も、晴れて、風もなく穏やか、前日のトレースも残っており、酷いラッセルもなく大松倉手前までスイスイ進む。

ところどころ吹き溜まりもあったが、さほど苦にもならず、大松倉からの稜線に、ここでも風はほどほどに吹いて、気持ちの良い事、周りを見ると、三ツ石、岩手山、八幡平、安比、秋田駒、乳頭、和賀方面等、何年振りかの絶景を堪能できて感動ものでした。

山荘に早く着いたので、腹ごしらえ、大休憩して、体を十分に休ませ、山頂に向かう。

山頂へは、いつもは左巻きに登ってるが、今回は右巻き(夏の登山道に沿って)に登って行ったが、急斜面なく、楽に登れたのは、雪が少ないからだと思った。



山頂からの眺めも 360 度の絶景、十分に目に焼き付けて下山、山荘まで自分の思うがままに滑れた。あっという間に山荘着、振り向いて自分のシュプールを見て、納得の滑りを十分に噛み締めて、帰路に着いた。

帰りは目の前に岩手山を見ながら、順調に、一日中晴天に恵まれて、やはりなにをするにも天候が一番、自然には勝てないと改めて思った。

ゲレンデにはスキーヤーが大勢、ゲレンデはところどころ黒いものが、まだまだ雪が欲しい。それにしても天候に恵まれた一日で、久々に忘れられない山行でした。





## ピッケル、アイゼン訓練（ニセ鶏頭山B班）

307 加藤桂子

日 時： 2017年1月29日 天気：晴れ  
メンバー：C L中村(数)、S L三浦(明),遠藤、高橋（恵）、高橋(陽),太田代、  
小田(嘉洋)、小田(晴),大森、大倉、加藤  
行 程：岳登山口 7:45—避難小屋 10:25/35—ニセ鶏頭頂上 12:05/10—森林限界  
12:40/13:15—避難小屋 13:35—岳下山口 15:10

久しぶりのニセ鶏頭冬山訓練です。会に入りたてのころは、毎年参加していましたが、何年か前若い新人会員が多く参加し、それについていくのにやっと。それに吹雪で梯子の所で戻ってきたときから、休んでいました。今年から日帰りとなり今日はピカピカの登頂上のお地藏様に合うのが楽しみです。

A班は、早い。ラッセルの後申し訳ない。衣類のコントロール。いらぬ物はザックにしまい込む。冬山の休憩は5分以内に素早く出発するよう訓練する。いよいよ森林限界の岩稜地帯にきてアイゼン装着。素手でやらない手袋をしてやるよう訓練。今日は天気も良いのでストック使用でもよいが、ピッケルも慣れてください。鉄梯子の登り、下りはアイゼンの爪の真ん中をかける。これらは慣れるより慣れろ。何でも体で覚える繰り返すことですね。始めて参加した人が苦労したみたいです。冬はとにかく寒いので行動は先を見越して素早くですね。スタッフからのアドバイスです。

岩場の見晴らしの良い場所で昼飯を取っているとA班が降りてきました。早いです。

先に出発したが壘石の所から一緒に下山しました。

天気も良く楽しく訓練ができスタッフの方詳しく優しく教えて(復習)もらいありがとうございます。





## 小松倉山ツリーランを楽しむ

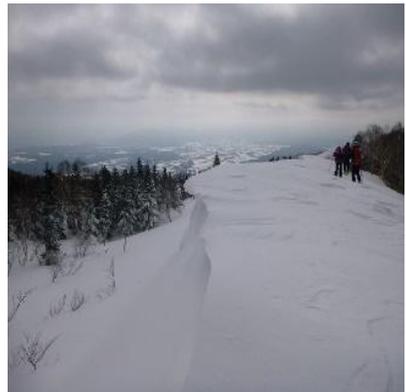
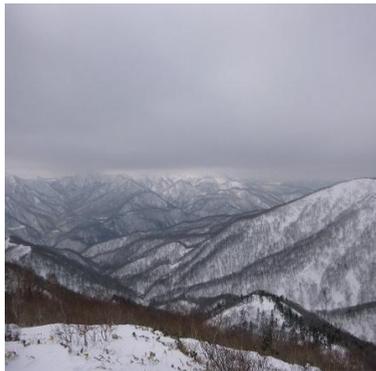
380 大峠 茂喜

日 時 2017年 2月 5日 (日)  
天 候 曇り  
参 加 者 S L古川、 医療村田、 S L石川、 装備木村、 気象徳永、  
記録柚澤、 記録大森、 C L大峠  
コースタイム 網張スキーセンター集合 8:30→出発 8:45→No.10 標識 10:15→  
小松倉山 10:45→網張スキーセンター着 12:10

前日の森吉山行の昼食中に話題となった、小松倉を滑りたい、参加者を募ったところ、ほぼ全員が参加する旨の賛同を得て実施することになりました。

朝は曇り空、遠くの山々を山頂まで見ながら、スキーセンター着、天候は午前中は大丈夫と、みんな張り切ってスタート、リフト利用して、第三リフトを目指した。第三リフト動いてない、トラブル発生か、点検終了まで待ってくださいと言われていたので、その間ゲレンデを滑ることに、結局ゲレンデ二本滑っても動かない。仕方なくNo.10 標識までゲレンデを歩くことに、疲れるほどの距離でもなく 10 分程で着いた。

小松倉を目指して、三ツ石に行くルートに沿って進み、大松倉手前のピークから小松倉稜線に入り、雪庇(例年より出てない)を注意しながら歩く。



スタートから稜線に出ても、風もなく、時折薄日のさす穏やかさで、360度の景色(岩手山、三ツ石、大白森、乳頭、秋田駒等)を堪能できた。小松倉を下って、樹林帯に入っても雪が少なく、雪は重く、笹が邪魔して滑りづらい、自称プロはスイスイと滑る、転んで苦労する人もおりましたが、樹林帯の開けた場所で、小休憩することになりました。



その後樹間が良くなり、笹も見えなくなり、雪質も良くなり、楽しく滑ることが出来たと思ったら、アッとゆう間に奥産道に出た。滑り終わってみれば物足りなさも感じた。

奥産道はトレースあり、シールも必要なく、ゲレンデまで苦も無く滑って、スキーセンター着は予定通りの時間に到着出来た。今日一日中穏やかで、ゲレンデスキー、シール装着、稜線歩き、樹林帯滑り、雪質もいろいろ経験できて、変化に富んだ充実した山行でした。また小松倉を滑りたいとの声に参加者から出ており、日程が空いた時に企画しようと思いますので、その際は参加お願い致します。

急遽の山行に参加頂きまして有難うございました。

皆様お疲れ様でした。



スポーツ界と違うのだ。もともとスポーツは漫画のように、play（遊び）の世界なのだから。

現実世界でも、長い歴史を物差しにすると、常識と非常識が交代するのが分かる。天動説から地動説へもその一例。実生活では、太陽が東から登り、西に落ちるのを体験している。感覚的には天動説の方が納得しやすい。地球と太陽のどちらが動こうと、生活に支障はない。ただし現代の科学者にはどっちでもよいわけがない。地動説を信じる科学者は科学者ではないとされる。

このように常識は「正しい」判断の道具として使われる。ここで問題が生じる。正しいのだから疑わないとなる。永遠に正しいとなれば、それは真実、真理なのだが・・・そうと思い込んでいる常識者もいる。思い込みが激しければ、常識に反することは、悪いことであり、断固排除すべしとなる。常識と真理が一体化した時、人の命よりも常識の方が大切になる。命を守るための常識が、殺人の常識になってしまう。

太陽が動こうが、地球が動こうが庶民の生活には関係がないと述べた。同じように、地球は丸かろうと、四角な板のような平面であろうと、生活するにはどちらでもよい。李氏朝鮮王朝では、古代中国に生まれた、正方形の大地の上を丸い(おそらく半球形の)天が覆っているという宇宙観(天円地方説)を真実(常識)としていた。天の中心点の真下(正方形の真ん中)が、最もよい地点(都)で、中心点から離れると野蛮な土地(夷)となるというのが中華思想だ。この常識(体制側の)学問:朱子学)に異を唱えることは、反体制思想(非常識)とみなされた。本家の中国は、西欧の植民地支配の荒波を受けた。平たい板のような正方形(天円地方)説は球形説に変わっていく。当然、朝鮮の進歩的な人々(実学派)はその情報を手にした。しかし朝鮮王朝は中国の属国で、鎖国をしている。その上、中国の文化(儒教、朱子学、中華思想)の正当な後継者であり、中国の次に位置する偉大な国だと思いこんでいた。この常識がある限り、大地は平らな正方形でなければならない。日常生活では、大地が丸かろうと平であろうと、普通の人にはどちらでもよいことだったのだが。

だが、丸いか平べったいのかだけの問題でなくなる。正方形なら周辺のどの位置からも等距離の地点が中心となる。球形の表面(人間の住む大地)には、どこにも中心がない、あるいはどこでも中心になれる。これが思想と結びつく。中華思想とは、中国の場所こそ天が決めた中心点だから、そこから遠くなるほど、野蛮な人の土地、日本でいえば蝦夷(京から見た北関東以北のまつろわぬ(不服従の)民たち)となる。住む場所が人間の身分を文明人か野蛮人かの分類道具になるのだ。丸い地球であれば、どの場所も中心になる。あるいはどこにも中心はない。だから、どこに住もうとみな同じとなる。住む場所の自由、身分の平等、あとは、隣同士と喧嘩しない心があれば、これこそ生きるのに最も素晴らしい場所ではないか、という考え方が生まれた(自由、平等、友愛のフランス革命宣言)。鎖国主義の朝鮮王国では、常識と非常識の転換が遅れてしまった。朝鮮王朝を支配していた兩班(ヤンバン)という貴族支配階層にとって、平等などという常識は朝鮮の歴史上考え

られない危険思想であり、非常識なのだ。支配階級に都合のよい常識が、日本に侵略され、多くの犠牲を出した朝鮮民衆の悲劇を生み出すまで生き残った。常識の転換が遅すぎたのだ。

常識は知らず知らずのうちに自分が入り入れたものだ。生活体験がその常識を最良としている。だから、自分の常識はこれでいいのかなとふりかえることはまずしない。「郷に入っては郷に従え」とは、その土地の常識に従えば、問題が起こらないという処世術だ。しかしその常識が人として許せないとなると、常識がいいか悪いかと疑うことになる。別な土地や集団に入った時、自分と新しい集団の常識を比べることになる。反対に環境や時代の変化に目をつぶれば、常識はいつまでも変化しない。

野外で寝るより、室内で寝た方が快適だ。屋根や四方の壁が雨風や寒さをしのいでくれるから。だが、身を守る快適さの代わりに、失うものもある。壁によって、外との交流の自由を失うのだ。常識という快適な処世術は、同時に周りの意思に従うという壁に閉じ込められる。人は生きるためにまわりを必要とする。必要悪かもしれない。しかし、生まれて死ぬ時は独りなのだ。ときには常識の束縛から解放され、ほんとうの自分と向き合いたい時がある。それにはどうしたらよいだろうか。「どこでもドア」は壁を無力化し、常識－非常識の境界を自由に往来できる楽しい優れものだ。

# 交流の広場

## 登山時報の紹介

登山時報の表紙が、三年ぶりに山岳写真から版画に変わりました。版画－水彩画－写真－版画になったわけです。版画家は杉山修さん、1月号のインタビューページで「山岳風景をテーマにして木版画 35 年 光と色のマジシャン」と紹介されています。1月号は冬の八方尾根ですが、ダケカンバの影が斜面に美しい模様として描かれています。表紙のレイアウトもタイトルや特集が、すっきりとして読みやすくなりました。

以前の水彩画シリーズを担当された筑井孝子さんは、現在も「ちょっと絵をうまく描こう」のコーナーで山の景色を描く時のワンポイントアドバイスを続けており、こちらも楽しみに読んでいます。

2月号では昨年11月に行われた「第16回全国登山者研究会」の分科会報告があり、若い世代の登山者交流には、当会から参加した杣澤さんも載っています。

別の分科会では、会報(機関誌)の発行、役割に関しても話し合いがおこなわれたようで、「機関誌部員が30人！」なんて羨ましい話あり「会報廃止に関して、登山や会組織の質が低下する、無くなってその価値に気付くものだ。」という発言もあったそうで本当にその通りだと思いました。

### ◆会報部員のチョット長めのひとこと◆

最近、校閲の仕事の舞台裏を紹介する雑誌の特集を読んで、校閲や校正作業について知る機会がありました。

今後の「あかげら」や「山友」の編集作業はもちろん、原稿の作成にも役立つ知識が載っていたのでご紹介します。

「校正」と「校閲」は作業として明確に分けられるものではないそうですが「文章を点検し、誤りを正す仕事」であり、①単純な誤植や、「てにをは」レベルのチェックと、②表現や事実関係に問題がないか、資料に当たりながら点検していく作業をおこなっているそうです。

特にワープロ、パソコンでの同音異義語の誤変換が多くなったという話は納得。実際に私も、漢字変換候補が次々に出てくるので、どれを選ぶべきか迷ったりします。

次に数字の確認。これも山の標高や山行日時などで注意したい点です。

そして整合性の確認。例えばひとつの作品で最初は三年前と書いたのに、同じ事柄が次に四年前になったりするなどの矛盾がないかを確認するのだそうです。

漢字の確認も重要です。形の似た漢字の間違い、人名や地名の思い違いもよくある話です。

この座談会で話題になったのが「差別的表現」です。明らかな差別語や不快語は使っていないけれど「結果的に差別的な表現」にならないように注意をはらっているとのこと。私もなにげなく書いたことで、誰かに不快な思いをさせないように気をつけています。

30周年記念誌の「山友」でも、会報部員全員で校正、校閲をおこないました。プライバシーの問題を心配して、部長に原稿を書いた方へ確認をお願いしたりもしました。

出来上がった記事や文章に間違いがあると、がっかりしますよね。その「がっかり」を減らすためにも、今後も丁寧な作業をしたいと思います。(彩子)



■□ 表紙の言葉 □■

— 4月の岩手山 —

昨年の中旬、残雪期の岩手山に登りました。

この年何度目かの挑戦で、ようやく外輪まで辿り着きました。

頂上は曇っていて見えませんでしたが、奥ノ宮には三日月形のスケートリンクが出来ていました。外輪の雪が融けて奥ノ宮に集まったようです。

想像していなかった光景に感動すらおぼえました。又違った一面を見せてもらいました。ありがとう岩手山！！

No. 288 級木 信子

あかげら 第339号

2017年2月22日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 会報部長 辰巳和司

印刷／製本 (有)小松茂印刷所

盛岡市大沢川原2-5-37

019-623-6073

盛岡山友会のホームページ

[http://www.geocities.jp/morioka\\_sanyukai/](http://www.geocities.jp/morioka_sanyukai/)

～里山からヒマラヤまで安く、楽しく、安全に！～